

研究の概要

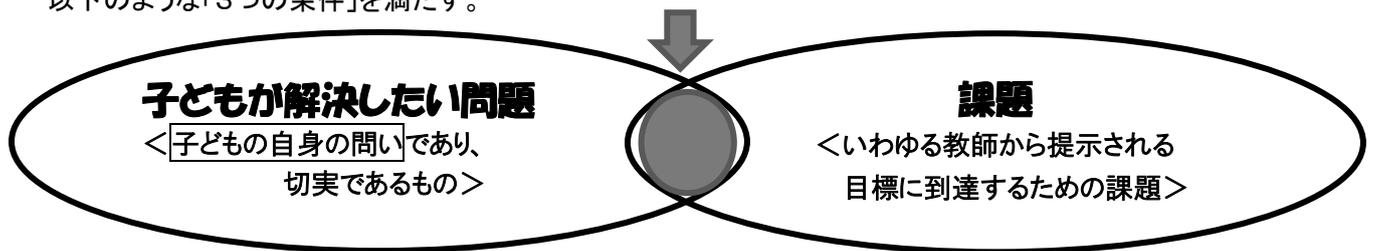
テーマ「ひびき合う 三の丸の子どもたち」

研究課題…子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成  
手だて……子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり

「子どもにとって解決したい問題が切実になった時、ひびき合うだろう」という考えから、その学習は子どもにとって問題が本当に解決したいものであるかどうか、それに基づいてひびき合っているかどうか視点に当て、「ひびき合う 三の丸の子どもたち」をめざしている。

## 子どもが解決したい問題とは・・・

子ども自身がある事象に対して「問題である」「なぜだろう?」と感じ、その解決を何とかして図ろうとする意思や関心を示す事柄である。つまり、その事象に対して主体的に向き合う問題であり、子ども自身の問いである。単元の中でどんどん問題意識が深まり、解決への熱意や切実な思いも増している状態であるとよりひびき合うだろうと考える。この問題はいわゆる教師から提示される目標に到達するための「課題」ではなく、その課題が子どもの解決したい問題と化している状態であることをめざしている。(つまりベン図の真ん中の重なりの部分)そして、以下のような「3つの条件」を満たす。



・研究では問題を追究する過程を授業で実現する。

### 問題が切実になりうる3つの条件

- ① 事実に基づく問題←(いつも確認するもの)
- ② 多様な、あるいは異質な考えや立場に出会う・知ることができる問題
- ③ 葛藤を内にもつ(=モヤモヤした自分の考えがはっきりしない状態)  
単純に(どうしたらよいか)自分で判断できない問題

問題が切実になるほど ひびき合う

## ひびき合う姿とは・・・

ひびき合い=みんなで関わり合いながら、よりよいものをめざし、  
よりよいものを築き上げていく姿。  
目に見える、または目に目ないけど、単元のねらいにより近づく心の変容(「強化」「変化」「統合」)

<「ひびき合う」の表記について>

子ども同士が、何か一つのことに向けてよりよい物を築くために、言葉をつなぎ、またそこから重ね合わせたりしながら、単元のねらいに近づき、心を変化させていくことを「響く」という言葉で表している。「音の振動」「影響」などの意味とは区別するため、本研究では「ひびき」とひらがな表記で表す。

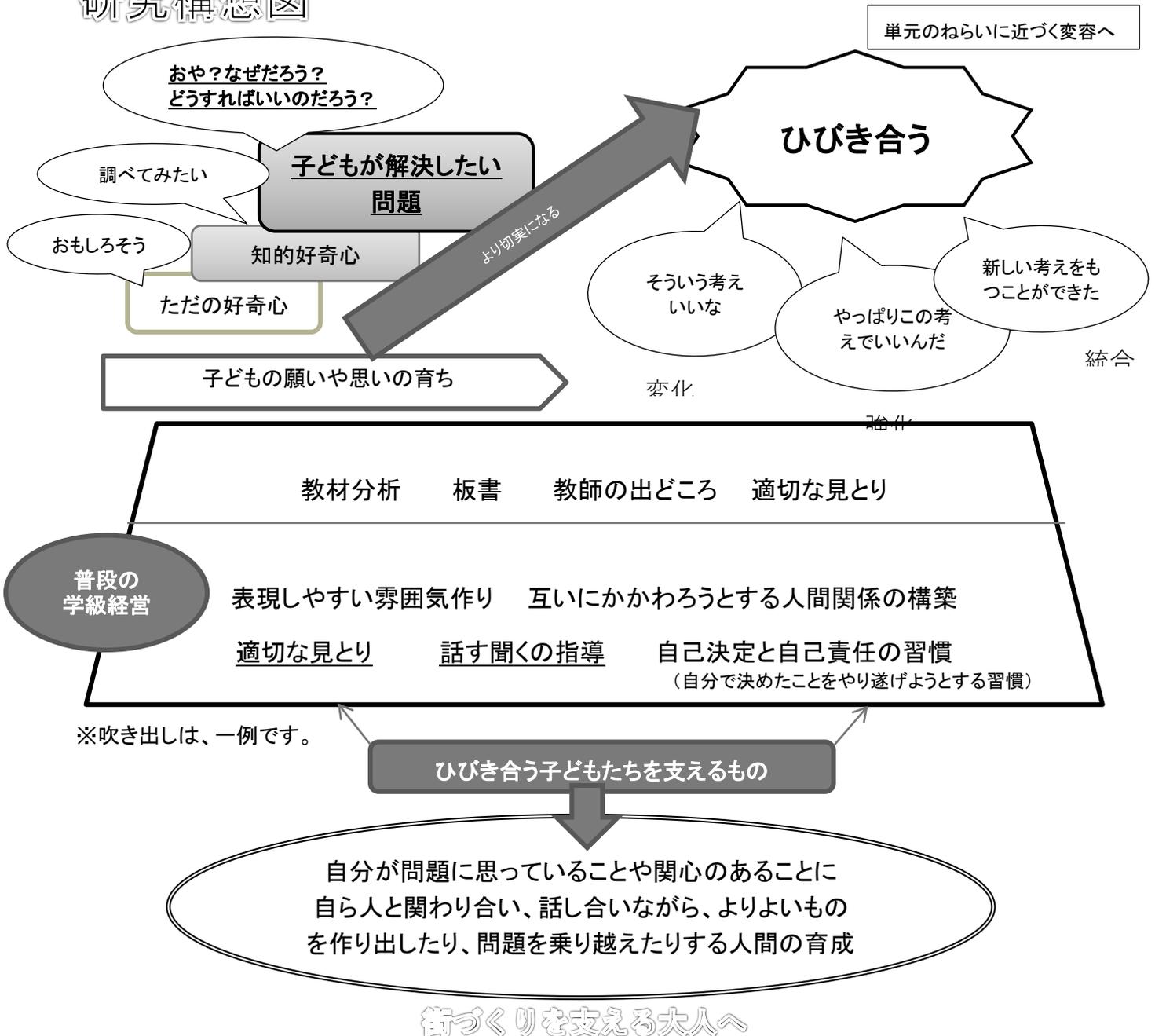
また「合う」は、子どもたちが「互いにそうする」という意味(三省堂国語辞典より)で、「合う」という表記を用いる。「助け合う」「話し合う」「認め合う」などと同じように、漢字表記にすることで、その意味を示す。

## ブロックテーマ(どんな姿が見られたらよいか)

低学年	中学年	高学年	個学
<b>感じる心、素直に表現する自分</b> ・人の言動に何かを感じる姿 ・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿	<b>追究する力、仲間と支え合う自分</b> ・自分の問題をとことん追究する姿 ・仲間と協働して追究する姿	<b>仲間への理解、自立する自分</b> ・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿 ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿	<b>感じる心、気持ちを伝える自分</b>

\* 小項目については、学年の実態に合わせて文言を変更するのも良い。また個学も必要に応じて変更し、ブロックテーマにせまる提案をしてよい。

## 研究構想図



※吹き出しは、一例です。